

平成23年10月19日

(仮称)三次市民ホール建設設計業務公募型プロポーザル審査講評

(仮称)三次市民ホール建設設計者選定委員会
委員長 杉本俊多

1 選考結果

- ・最優秀者(第1席):株式会社 青木淳建築計画事務所
- ・優秀者(第2席):株式会社 新居千秋都市建築設計

2 総評

選考の対象となった35者の提案は、それぞれに三次市および建設予定地についてよく調べ、その特性をよく把握するものになっており、充実したプロポーザルとなった。提案内容はさまざまな角度から、独自の考え方を提示するものとなっており、実に多様であった。

第2次選考対象となった5者に関しては、提案書の内容はとりわけ充実しており、業務実績を含めて、実力と経験を兼ね備えた設計者がそろって競うこととなった。各者の提案内容はそれぞれに个性的で多様であり、また、プレゼンテーション及び質疑応答に関しても明快かつ的確な説明・応答がなされ、各提案者への評価は拮抗するものであった。

最終審査に入る前に、プレゼンテーションにおいて、一部で提案書にない写真や図が視覚資料として使われていたことについて疑義があがったが、提案書の記載物自体に変化はなく、プレゼンテーション用の補足資料にすぎないものであったので、5者全てを審査の対象とすることを確認した。

最終審査では、ホールとしての使い勝手や、日常利用での賑わいの可能性、周囲の居住環境への配慮、そして市民参画の考え方等も議論となった。また、二次的に駐車場の考え方や災害時の対応なども議論した。

最優秀者が決定する際にはそれらに加えて、どれだけ多くの様々な市民に利用される施設となるか、また、将来の利用用途の変化に対応していく柔軟性があるか等の視点が加えられた。

3 寸評

株式会社青木淳建築計画事務所案

当該施設の基本的な空間コンセプトを明快な骨格として整理し、わかりやす

く説明した提案である。まず、施設の基準平面を全体的に地盤から5メートル上げて災害時に対応するという、東日本大震災のあった今年だからこそ重視されるべき防災の姿勢が明快に示されている点に特徴がある。建築施設としては、ホールと中庭を囲むようにして施設全体に明快な回廊を一巡させてあり、様々な機能が固定的かつ流動的に利用でき、施設を最大限に有効活用することが目指されている。それによって裏と表、すなわち演じる側とそれを享受する側の空間の流動性を高め、一体化させるという、これからの市民文化のあり方を提案している。基準階をかさ上げしていることのコストの懸念はあるが、建物自体をシンプルな形態で計画するなどして、配慮してある。また三次市の伝統的な芸術、文化をもとにした将来の文化的発展への視点が示されており、加えて子どもたちを含めて市民と共同で新しい文化施設を造り込んでいこうとしており、市民参画型まちづくりという現代の趨勢にも合致している。提示された基本的な骨格をもとにした展開が期待される提案である

株式会社 新居千秋都市建築設計案

敷地に対する綿密な調査・検討が行なわれ、特に駐車場のコストを考慮してきわめて現実的、合理的な配置計画がなされた提案である。ホールやその他の諸室を敷地の願万地線の道路に斜めに向け配置することで、周辺の住居への日影に配慮しており、好感度の高いものとなっている。ホールの客席については多くの経験をもとに独自の形式を採用し、性能の高いものが期待され、またリハーサル室は緑地広場に開放でき、イベントの開催も可能としてあり、文化的な活性化を誘発する可能性もある。さらにはホールの表から裏へと断続する創造支援諸室は人の動きを考慮した優れた平面配置計画である。他方で大小各空間の、巧みではあるが複雑な構成は、外観等においても複雑なイメージを強いこととなっており、またのびやかな空間の展開が見られるものの、強い造形志向が穏やかな盆地形の中にあって市民に好感されるかどうか、懸念も示された。

以上